

皆さん こんにちは。文化財課の児玉です。現在、当課では国史跡 浪岡城跡や国史跡 高屋敷館遺跡の史跡整備、大釈迦工業団地にある野尻（4）遺跡の発掘調査など、浪岡地区の遺跡に関連する業務に取り組んでいます。



野尻(4)遺跡の発掘調査の様子(平成 29 年)

このようなことから今回は、浪岡地区の遺跡の概要について述べたいと思います。浪岡地区は、現在約 100 ヶ所の遺跡が確認されており、古くから人々の往来や文化交流が盛んで、津軽平野と外ヶ浜とをつなぐ交通の要となっていたようです。

縄文時代後期の松山遺跡と源常平遺跡からは、それぞれ複数の土器棺^{どきかん}（成人骨の収納容器）が出土しており、当時の墓制を考える上で貴重です。縄文時代晩期では、細野遺跡から多量の亀ヶ岡式土器が出土し、平野遺跡や源常平遺跡から数多くの土坑墓^{どこうぼ}（土葬用の墓）が見つかっています。

弥生時代を経て古代になると、土師器^{はじき}や須恵器^{すえき}を使い、製鉄を行う蝦夷^{えみし}とよばれた人々が居住するようになり、独自の地域社会を作っていました。浪岡地区では、この時代の遺跡の発掘調査事例が目立ち、羽黒平遺跡群、野尻遺跡群などからは非常に多くの竪穴建物（住居跡や工房等）が発見されました。そのなかでも、11 世紀にもっとも栄えた高屋敷館遺跡は、壕^{ほり}と土塁^{どるい}に囲まれた特異な集落遺跡で、鉄に係わる生産活動などが行われていたようです。

やがて武家社会となり、東北を広く治めていた北畠氏が、南北朝の動乱（室町時代）後に落のび居住したと考えられる地が浪岡城であり、この浪岡城を拠点に活躍した一族が浪岡北畠氏です。浪岡城が営まれたのは北畠顕義の時代、応仁の乱（1467～1477 年）の前後と推測され、北畠氏が浪岡に来ておよそ 50 年、土地に根ざししだいに力をつけた頃のことと考えられます。1500 年代前半の最盛期には、京都と盛んに交流し、寺社を建立するなどしています。しかし、1562 年におきた親族間での争いにより勢力が衰え、1778 年に大浦（津軽）為信に攻められ落城してしまいます。以後、約 400 年、城跡は畑や水田として使われてきました。昭和 15 年 2 月に青森県で初めて国史跡指定を受け、現在は史跡公園として多くの人々に親しまれています。